

果樹の生長調整物質利用について

わが国の果樹栽培では、生長調整物質の研究はかなり以前より行なわれ、その進歩は著しい方であり、後期落果防止、無核果誘起、省力摘果、果実の早熟化等が主要な利用である。

今、ぶどう栽培で貢献の著しいデラウエヤの無核化（ジベデラ）について考えてみよう。本法は、ジベレリン研究会の共同研究により、約20年前にできたものである。その特長をみると、種なし果で、有核果にくらべ果穂が大きく、20日余り早熟となる。ジベ処理は面倒であるが、棚仕立であるから、立木の他の果樹よりやりやすい。デラウエヤは、栽培の多い主要な早生品種で、ぶどう産地では当時は一戸当たり栽培面積の大きい生産者がかなりあり、収穫労力の点等より減反を考える農家もあったが、この新技術により、収穫労力や出荷期の分散もできるようになり、しかも無核で食べやすく、品質がよいので単価は高く、有核デラの反収の少ない欠点はカバーされ、経営上の問題も解消した。現在では、有核デラの経済栽培は殆んどみられない程となった。デラウエヤ以外の主要品種では、有核粒が混ったり、果穂が硬化したりして、本法が使えない。以上のような理由で、本技術が急速に普及し、ぶどう生産に大きく寄与したのである。

ジベデラでもそうであったが、一般に生長調整物質の効果は、品種・樹勢・栄養状態・処理期頃の気象等色々の要因も働きやすいので、試験規模を拡げ、長時日をかけることが必要であるので、この種の研究は「植調」の行っているような全国的な共同研究が大切である。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
明治大学農学部教授 佐藤公一〕

目 次

(第13巻第8号)

トマト栽培における生育調節剤の利用……	2
＜千葉県農業試験場 荻原佐太郎＞	
ま え が き……	2
1. 着 果 促 進……	2
〔トマトトーン, 2,4-D, ジベレリン〕……	2
・ホルモン剤の種類・使用法 と空洞果の発生……	3
・その他の着果ホルモン……	4
2. 生 長 抑 制……	5
〔B-995, CCC, BCB〕	
3. 着 色 促 進……	5
〔エチレン・エスレル〕	
あ と が き……	7
外国文献抄録……	7
除草剤使用面積一覧表……	9
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
新登録除草剤一覧……	14
新登録生育調節剤一覧……	17
＜農林水産省植物防疫課＞	
植調協会だより……	17

表紙の写真は、ナガエコナスビの種実
表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影した
もの；網目突起型×3800.

〔写真提供者；笠原安夫氏〕